

第 48 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：樹林環境及び湿地環境の順応的管理—

4月18日、今年度の最初の研修会を開催し、座間谷戸山公園での研修会も5年目に突入しました。

今回はホトケドジョウのビオトープ再生という内容を予定していましたが、若干内容を変更し、ホトケドジョウの水路造成のための間伐材加工および、春に見られる植物の観察を行いました。



5年前に作業を始めた湿生生態園ですが、ヨシの勢力をかなり抑えてきたことで、少しずつ環境も変わり、他の植物も観察しやすくなってきました。



その湿生生態園の中に入り、植物を探してみました。



これはツボスミレ(別名ニョイスミレ)。
ここでは講師に教えてもらうだけでなく、
図鑑を持参した受講生がそれぞれに調べて
同定していました。



現場で自ら観察し調べるといことは、
教えてもらうより数倍も勉強になります。
これはなんという植物か分かりますか？



観察後は、以前ホトケドジョウのビオトープ再生を
行った水路を見学。専門家によると、ここは若干
水深が深かったようなので、次回はもう少し浅めの
水路にしていく必要があります。生きものの気持ち
になってビオトープを再生するというのは、簡単では
ないんですね。



その水路の造成に利用する杭や粗朶は、
冬場の樹林管理で出た材料を加工して利用します。



樹林環境の管理と湿地環境の管理、うまく
連動して行うことで、無駄が出ないんですね。



さて、お昼を挟み、まずは恒例の「気になった
環境記事」の発表です。今回は園内の
「森の学校」にて発表しました。



今回は現場に移動する途中にも色々と観察することができました。
写真左から、ベニシジミ、モンキアゲハ(羽化したてでした)、ムサシアブミ。



午後の作業は前回までの続きで、植林地の間伐作業を行いました。ここは作業がまだたくさん残っている場所なので、まだまだ暗いですね。



最後に研修内容のまとめや質疑応答などを行い、今回の研修会は終了です。

次回からは、ホトケドジョウのビオトープ再生、湿生生態園の管理作業などを行っていく予定です。まだ参加されたことのない方も、ぜひ一度現場研修会に参加してみてください。